

2学期始業式講話(8月26日)

校長 仙田 健

いよいよ今日から2学期が始まりました。こうやって、再び皆さんの元気で引き締まった顔を見ることができて、本当に嬉しく思います。休み前に、「記録することにしっかりと向き合って、自分が理想とする生活と学習習慣を身に付けましょう」と話しましたが、いかがだったでしょうか。もし、すっかりサボっていました。という人は来週からでもかまいませんので、就寝時刻、学習時間、メディア時間をしっかりと記録をして、生活リズムを整え、体調を万全にして、2学期のいいスタートが切れるようにしましょう。もう双翼祭は目の前です。一日も早く、ペースを取り戻して、充実した2学期にしましょう。

さて、振り返って見ると、この夏の一番の出来事はなんと言っても8月3日からの大雨でした。線状降水帯が発生し、8月3日から4日にかけて、村上市や関川村に大きな被害が発生してしまいました。特に、荒川地域や神林地域、関川地域などの被害の大きさは、皆さんもテレビ等で目にしたと思います。一面、泥の海となり、全壊した家もあり、床上浸水は700棟を越え、床下浸水も約900棟にもなるとのことでした。被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。一方、村上地域は、三面川の氾濫の危険が高まり、避難指示が出されましたが、結果的にはギリギリのところまで越水や堤防の決壊は免れ、事なきを得ました。しかし、三面川の氾濫危険水位を大きく上回り、さらに三面ダムの緊急放流も行われ、本当に予断を許さない状況であったとのことでした。私も生まれて初めて避難することになりましたが、いざ避難となると日頃の準備不足を痛切に感じるようになりました。そんな自分とは対照的に、避難所の市の職員や消防団の皆様がテキパキと動く姿を目の当たりにし、本当に心強さやありがたさを感じることができました。

さて、災害ボランティアの募集が始まっていますが、皆さんの中で、被災の現場に行った人はいましたか。私は、わずか半日、坂町の知人の家の片付けに行っただけでしたが、ある人から一中の生徒が、ボランティアに来ていて、大人顔負けの活躍をしていたという話を聞きました。2年生の男子生徒でした。本人に話を聞いたら、何とか協力したいという気持ちから、思い切って自分一人で電車に乗って、ボランティアセンターへ行き、申込みをして、見ず知らずの他の大人たちと一緒に、丸2日間、被害の大きかった坂町や小岩内地区で作業をしてきたというのです。私は、彼の行動力のすごさにびっくりすると共に、一中にこんな素晴らしい生徒がいるということが本当に誇らしく思えました。彼は、テレビで見ている映像とは違う、見ただけでは分からない現場のひどさを実感するとともに、人間一人ではどうにもならないこともあり、やはり助け合って生きていくことが大事だと語っていました。体験を通じて、本当に大切なことをたくさん学んできたのだなと思いました。

この4月に行われた3年生の全国学力学習状況調査生徒質問紙の結果をみると、

- 自分でやると決めたことは、やり遂げる 55% (全国比+18)
- 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する 37% (全国比+16)
- 人が困っているときは、進んで助ける 68% (全国比+28)

いずれも全国の平均を大きく上回る結果となっています。このことから、一中の生徒は、本当に素晴らしい力を持っていることが分かります。今回のボランティアに参加してくれた生徒は、正に、このことを行動で示してくれたものであるともいえると受け止めています。この2学期も、双翼祭をはじめとして、周りの人と力を合わせながら、自分で考え、行動し、挑戦を続けていってくださることを期待しています。

